

One Shot Cinema 4月のラインナップ

“On Every Tuesday at 7:00 p.m.!!”

2018年よりスタートしました1日1回限定上映、文字通り「1度きり」の上映企画”One Shot Cinema”、4月のラインナップが早速決定いたしました！
毎週火曜日、夜19時～の1日1回限定の上映となります！

【料金】

一律1,400円、シニア・特別会員1,100円

※夜19時台の上映を予定しておりますが、
具体的なスケジュールは週により変動いたします。

4/3(火)



『目撃者 闇の中の瞳』

(2017/台湾/117分/PG12
監督：チェン・ウェイハオ)

ジャーナリストの卵が山道で目撃した高級車2台の衝突死亡事故。9年後、やり手の新聞記者となった男は、今乗っている愛車がその時当て逃げされた事故車だったと知る。それは悪夢のはじまりだった—。台湾で注目を集める33歳の新鋭監督、チェン・ウェイハオによる、時空と視点が交錯する巧みな構成で描いた犯罪スリラー。

4/10(火)

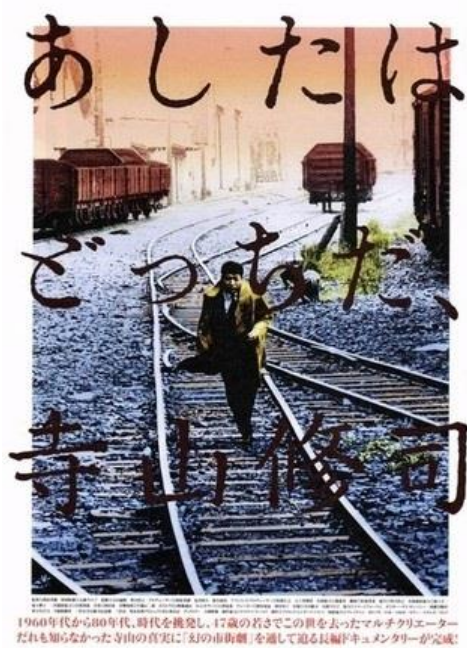


『日曜日の散歩者 わすれられた台湾詩人たち』

(2015/台湾/162分/監督：ホアン・ヤーリー)

1930年代、日本による植民地支配が40年近く経過した、日本統治期の台湾。日本語で新しい台湾文学を生み出そうとした詩人団体、「風車詩社」。しかし彼らは戦後の二二八事件、しかし彼らは戦後の二二八事件、白色テロなど、植民地支配、言論弾圧という大きな時代の渦の中に埋もれていった。彼らの情熱が現代を生きる我々にいま訴えかけてくるものとは—。詩の朗読、貴重な資料映像、前衛的な手法で描れる再現パートの、3つの要素で構成される本作は、多くの国際映画祭を席卷した。

4/17(火)



『あしたはどっちだ、寺山修司』

(2017/日本/100分/監督：相原英雄)

異端のマルチクリエイター、寺山修司に迫るドキュメンタリー。彼は「演劇による革命」を標榜し、過激版フラッシュモブともいうべき市街劇「ノック」を街中でゲリラ的に敢行した。アナーキストを自負する寺山の原動力とは何か、調べていくと彼の創作や思想に影響を与えた驚くべき過去が浮かび上がり、最後に計画していた幻の市街劇の存在が明らかに。

4/24(火)

オ
ラ
フ
ァ
ー
エ
リ
ア
ソ
ン
視
覚
と
知
覚

OLAFUR ELIASSON : SPACE IS PROCESS
www.eliasson.com



同じ現実、違う世界。あなたには何色に見えるだろうか？

『オラファー・エリアソン 視覚と知覚』

(2009/デンマーク/77分
監督：ヘンリック・ルンデ、ヤコブ・イエルゲンセン)

世界的に著名な現代アート作家、オラファー・エリアソン。ニューヨーク市イースト川での巨大な滝のインスタレーション「ザ・ニューヨークシティ・ウォーターフォールズ」の製作過程、金沢21世紀美術館などでの過去の出展作品、ドイツの製作スタジオの風景などを映す。スクリーン越しに観客に行う視覚的実験や、日本にほぼ文献がない芸術論も展開される。